

二〇一六年二月一九日

川舟の揺らぐ岸边や水温む

こすもす

草野球球は春泥まみれかな  
足弱の吾も膝行す涅槃絵図

豆 狸  
菜 々

子ら競ふ紙飛行機に風光る

智恵子

二〇一六年二月一五日

菜 々

単線の線路まつすぐ初つばめ

なつき

行商の魚少なき余寒かな  
草萌ゆるよちよち歩きでし子に

よし女

下萌ゆる丘のベンチに推敲す

ひかり

夫に買うふバレンタインのお饅頭  
凝りし肩ぐるぐる回し春寒し

菜 々  
よし女

二〇一六年二月一八日

梅の丘どの径とるも迷路めく

ひかり

残雪の山に訝すホルンかな  
イナバウアー繰り返しある東風の藪

明日香

口誦さむいつもの唱歌青き踏む

うつき

二〇一六年二月一四日

宏 虎

四温なる駅の日だまり人屯

なつき

外つ国の言葉もまじるこたつ舟  
田起こしの畝幾筋も明日香道

智恵子

糸ほどの蔓に芽を吹くさねかづら

菜 々

二〇一六年二月一七日

豆 狸

二〇一六年二月一七日

せせらぎに見つけて嬉し落のたう

満 天

湯宿の灯芽吹き樹々へこぼれけり

明日香

海光の方千畳に牡蠣筏

よし女

二〇一六年二月一三日

さつき

奥の院へと標たつ梅の坂

菜 々

岸壁を打つ波音も早春譜  
春炬燵孫に折り紙習ひけり

よし女

二〇一六年二月一六日

菜 々

春めくや鰯の腹子ほのと透け  
風化して読めぬ一句碑凍てにけり

ともえ

二〇一六年二月一六日

風見鶏翻弄されし春嵐

智恵子

風化して読めぬ一句碑凍てにけり

豆 狸

春愁や閻王と眼のあひてより

うつき

雪間道踏みて富山の薬売り

よし女

雪間道踏みて富山の薬売り

よし女

毎日句会みの選・二〇一六年二月二日